

加賀の伝統技術を今に伝え 新たな価値を創出

金沢仏壇 飾り金具 × ^{のう ようじ}能 要二 [石川県金沢市]

石川県金沢市で制作される金沢仏壇は、加賀藩主が多くの職人を集めて美術工芸品を制作させたという細工所の高い技術を今に受け継ぐ伝統工芸品です。華やかな加賀文化を窺わせる金沢仏壇は、「木地・^{くうでん}宮殿(厨子)・木地彫り・箔彫り・塗・蒔絵・金具」の七職の分業により制作され、一つの仏壇に組み上げられます。能要二氏は、「^{かざり}銚やさん」と職人の間で呼ばれている飾り金具を制作する職人の一人です。現代の住宅事情から新たな仏壇の注文は減っていますが、現在は古い寺院などで使われていた金具の修復などにもその技を活かしているそうです。また、金属を加工したり、優美な模様を彫ったりする伝統的な技を駆使し、金具のほかにも現代の生活様式に合う新しい価値を届けることにも挑戦しています。



●純銅製水差しシリーズ 水差し、水差し花瓶
「金沢市ものづくり実践塾」で専門家の支援を受け、飾り金具で培われた技術を活かして制作。用の美を追求したデザインに、銅本来の色調と輝きが楽しめる逸品。



●金沢城二の丸御殿 引手金具(復元)
金沢市立玉川図書館で新たに見つかった史料に描かれていた見本絵型から復元した。



●飾り箱
唐草を蝶のように組み合わせることで、伝統的な模様を洋風にアレンジして制作している。

【有限会社 能正治商店】
石川県金沢市増泉1-22-14
TEL:076-242-0656
<https://kazari-nou.com/>



金具の修復には新旧の技を用いている。仏壇の他にも山車(だし)や神輿、キリコなどの金具を手掛けることもある。



模様の刻印や輪郭の切断などに使う鑿(たがね)は、先々代や先代から受け継がれたものも使用して制作している。

能 要二 (有限会社 能正治商店 代表取締役)

富山県高岡で代々銀細工職人として技術を継承していた初代・能要次郎氏が、弟子の職人を伴い、明治期に金沢市野町へ移転。先代の正治氏が現在の金沢市増泉に移り会社を設立。現在は4代目の要二氏が跡を継いでいる。2011年に金沢仏壇金具部門伝統工芸士に認定。2020年には「金沢ブランド工芸品開発促進補助事業」、「金沢ものづくり実践塾製品開発支援事業」に採択されるなど、伝統的な技術を現代の暮らしに伝える活動にも取り組む。

紹介動画は
こちらから

